

## 2018年度事業活動報告書

(2018年4月1日～2019年3月31日)

特定非営利活動法人 iCare ほっかいどう

### 1、特定非営利活動に係る事業

#### (1) 意思伝達装置に係る支援事業

- ① 患者支援は札幌市内 72 名、札幌市以外 35 名の患者やご家族からの相談を受けて支援させていただきました。
- ② 今年は初めて年度末の活動報告会を有料(500 円)で実施し、2019 年度から iCare ほっかいどうの訪問支援が有償(札幌市内 3000 円、市外 3000 円+交通費実費)になることをお話し、アンケートでは約 9 割の方が賛同してくれました。活動報告会では北海道大学病院神経内科医の松岡理明先生から「多系統萎縮症患者のコミュニケーション」というテーマでお話をいただき、「同じ病気でも一人一人違うので、コミュニケーション手段も個々に方法を考える必要がある」というお話をさせていただきました。参加者は 40 名程でした。
- ③ 現在 4 つの大学等の作業療法学科の授業(AAC、地域作業療法等)で意思伝達機器に関する講義を担当しています。また学生の実習を受け入れて、スイッチ作成や患者さん訪問などを行い、道内のコミュニケーション支援に関する現状を学んでいただいています。年度末に札幌市内の専門学校の ST 科 PT 科からも声をかけていただき、新年度からは 6 校となり、また新しい出会いがありました。
- ④ 日本 ALS 協会など、患者会との連携が進み、コミュニケーションだけではなく、生活に不安を抱える患者さんにとってもより心強い存在になりたいと思います。
- ⑤ 養護学校からの依頼を受けて、活動報告や機器展示、スイッチ作成の勉強会を実施しました。
- ⑥ 札幌市障がい福祉課から助成金をいただき 8 日間 16 コマに及ぶ長期のコミュニケーション研修会を実施しました。参加者は延べ 196 名。参加してくださった医療者や講師を務めて下さった皆さん、会場を貸して下さった札幌医科大学病院、ノーザリーライフケアさんには大変感謝しております。来年度はもう少し間隔をゆったりとって実施する予定です。
- ⑦ 三角山放送局で毎月第 4 土曜日に放送されている「ALS のたわごと」(ALS パーソナリティ米沢和也、協力：iCare ほっかいどう)がまる 4 年を迎え、公益財団法人『テクノエイド協会』平成 30 年度障害者自立支援機器導入好事例普及事業～障害者の自立支援機器の普及と利用促進に向けて～というテーマで“声を失ったパーソナリティがラジオを継続”が「好事例賞」を受賞しました。昨年は全国 8 社の新聞に掲載され、ジャパントイムズにも紹介されました。

#### (2) 放課後デイサービス事業

「放課後デイばおぼぶ」を開設して 3 年が経過しました。4 月に日本財団からの助成により送迎車キャラバンが導入されたことからほぼ完全送迎が可能になり、それに伴い利用も次第に増えてきました。現在登録児童は 20 名です。

今年度は初めて「親子遠足」を実施し 5 組の親子が参加しました。夏のイベントとして定着させていきたいと思います。

また 12 月には「クリスマス発表会」を内田洋行様のショールームをお借りして開催することができました。単なるクリスマス会ではなく、普段デイで行っている活動や遊びの様子を保護者や養護学校の先生方に見ていただくことが目的です。こちらも毎年の行事として定着させていきたいと思います。

日常の活動では、長く通って来ている子どもたちに成長の変化がみてとれることなど、確実に成果が見られています。

(3) 情報収集、情報提供及び調査研究事業  
該当なし

2、その他の事業  
該当なし